

会派行政視察報告書

会派研修の結果について、下記のとおり報告します。

令和8年2月19日


光市議会議長 森戸芳史様

光市議会議員 早稲田真弓

記

- | | |
|---------|----------------------------|
| 1 調査年月日 | 1. 令和8年2月3日（火） 13:30～16:00 |
| | 2. 令和8年2月4日（水） 9:30～12:30 |
| 2 調査市等 | 1. 岡山県奈義町 |
| | 2. 岡山県笠岡市 |
| 3 調査結果 | 別紙のとおり |

調査結果

日 時	令和 8 年 2 月 3 日 (火) 13 : 30~16 : 00	
調査市等	岡山県奈義町	
調査事項	少子化対策	
説明者	情報企画課副参事・メンター <small>ながはたみつひろ</small> 長畑光洋氏	

<奈義町の概要> (令和 8 年 1 月 1 日現在)

- ・面積 : 69.52 km²
- ・人口 : 5,373 人
- ・世帯数 : 2,396 世帯

岡山県北東部、鳥取県との県境にある町。中国山地に位置し、町域の大半を山林が占める。南部は日本原高原と呼ばれる高原となっており、陸上自衛隊日本原駐屯地と日本原演習場がある。



<視察の流れ>

奈義町役場にて少子化対策について話を聞き、その後、「なぎチャイルドホーム」の現地視察を行った。

奈義町少子化対策について

奈義町では平成 14 年に合併をしない選択をして以降、単独町制を維持するために、人口維持を重要課題として捉え、様々な子育て支援を整備してきた。平成 24 年に「子育て応援宣言」を掲げ、「子育てするなら奈義町」と言われ、若者定住でき、安心して産み育てられるまちづくりを目指している。令和元年には合計特殊出生率「2.95」を記録した。

【主な経済的支援】

- ・こども園、小中学校の給食費無償化
- ・小中学校の教育教材費を無料化
- ・高校生への就学支援年額 240,000 円など
- その他、産前産後のケアも充実している。

【しごとコンビニ事業】 奈義しごとえん

- ・対象 : 子育て中の母親、保護者、シニア世代など
- ・目的 : ①子育てしながらでも就労できる仕組みや環境を整備する。
- ②シニア世代など“時間に余裕のある人”“社会の役に立ちたいと考える人”らが少しでも働くことができるようにする。



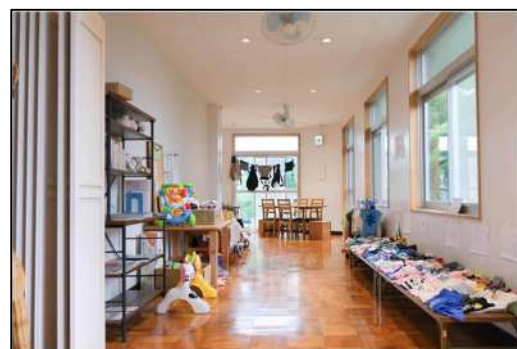
③一つの仕事を、みんなでワークシェアすることで、より多く人が地域や社会に関われるような“総活躍のまち”をつくる。

④町の中に今ある仕事や、新しい仕事の受け皿づくりをすることで、新たな産業の創出や、働きやすい職場環境を作っていく。

⑤仕事を任せる側（事業主など）の、業務の効率化を図る。

なぎチャイルドホーム

子どもと大人が世代を越えて、出会い、ふれあい、互いに心を通わせ育ち合える交流の場となっている。誰でも、いつでも、来れる場所で、「子育てアドバイザー」が常駐し、子育ての悩みなどが相談できたり、イベントも多々あり地域の情報が集まる場所である。



おもちゃ・衣服の提供（リユース）

<所感>


奈義町の少子化対策のポイントは、「町ぐるみの子育て」であると感じた。高い出生率のポイントは、“安心感”との説明が印象的であり、子育てにかかるさまざまな経済的支援、住居負担の軽減、町の人々による子育てへの応援などが、親たちや周囲から安心感を持たれ、成果を挙げていると思われる。

また、こども園・小中学校一貫教育の中で英語が話せる子どもたちの育成を目指し、各学年ごとにALTを配置、計12人ものALTを常時配置し、魅力ある教育の推進を行っていることに感銘を受けた。ICTオンライン英会話活用の授業も小5・6年生および中1～3年生で年間30分を約20回と充実している。

2023年には「こども議会」を行うなど、こどもの意見を大切に、提案事項は予算化や条例整備につなげていることも素晴らしい。

「おっばい都市宣言」をしている本市においても、さらに子育て支援を充実させる必要があると感じた。

調査結果

日 時	令和 8 年 2 月 4 日（水） 9 : 30 ~ 12 : 30	
調 査 市 等	岡山県笠岡市	
調 査 事 項	廃校の活用 海の校舎	
説 明 者	海の校舎 代表理事長 ^{みなみ} 南 ^{ともゆき} 智之 氏	

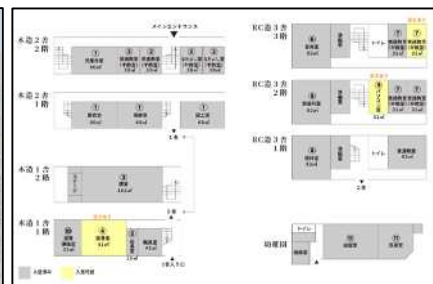
<海の校舎の概要>

2018 年 3 月に閉校した旧笠岡市立大島小学校と大島東幼稚園を利活用した、ものづくりを中心としたクリエイターが入居するシェアアトリエ。2018 年より利活用の計画がなされ、2021 年 7 月にオープンした。

運営を行うのは、入居者有志と地域の大島まちづくり協議会からなる「NPO法人 海の校舎大島東小」である。

<目的>

廃校になった校舎を、持続的に利用し、魅力的な場を創出して定住人口および関係人口の増加、にぎわいの創出に寄与することを目的としている。



<NPO法人の事業>

- ・シェアアトリエ運営を行う「シェアアトリエ事業」
- ・地域活性化を目的としたイベントを行う「地域交流活性化事業」
- ・海の校舎に集まったクリエイターと地域住民の交流を行う「地域まなび合い事業」

NPOの理事有志 4 名により運営している。2023 年 4 月より笠岡市地域おこし協力隊 1 名（2025 年 4 月よりスポットでの協力）も運営と周辺地域活性化を主業務として参画し業務を扱っている。

外部のシェアオフィス運営会社に業務委託せずに、自身の仕事を持つ入居者 NPO 理事が主な運営者となっていることが特徴である。

<収支>

2024 年度実績として収入合計約 1,020 万円、うちシェアアトリエ入居者利用料約 870 万円。支出合計は約 945 万円。その他の NPO 会費や寄附金、うみの市出店料の収入と、通信費、印刷費、交通費等の支出を計上すると、NPO 全体の収支は約 80 万円の黒字。

<課題点>

- ・建物が大きく4棟に分かれ、清掃や戸締まりなど管理が膨大。
- ・昔ながらの木造建築のため、雨漏りや台風対策、シロアリなどの害虫駆除など管理が大変。
- ・屋根工事などの修繕費用の確保が困難。
- ・浄化槽が旧小学校で使われていた容量のため、飲食店を常時運用することができず、外部来館者や入居者への飲食の提供が難しい。



<今後の展望>

オープンしてから約4年である2025年8月現在、多くの教室に入居者が決まっている。部屋数が限られているので、レンタルスペースやワーキングスペースの利用を増やす必要がある。



不足している照明、屋外の整備を行っていく予定である。

<地域活性化事業>

「うみの市」：外部の方に海の校舎を知ってもらい、ものづくりに接してもらうために開催している。第6回には3,200人の来客があった。

「開放日」：入居者が作業にしっかりと向き合える日と、一般客との交流を促していく日のメリハリをつける目的で定期的を設定している。

<所感>

「海の校舎」は150年の歴史を持つ木造建築の旧小学校を利活用したのもので、歴史の重みを感じ、古いものの価値をあらためて見直す機会となった。ロケーションも素晴らしく、開放感があり、クリエイターの創作意欲が自然に湧き出してくる場所だと実感した。



(校舎屋上からの景色)

ただ、指定管理制度ではなくNPO法人が運営を担っており、修繕や改築など管理に膨大な費用を要するので、経営は困難であることは聞かずとも推測できた。

そんな厳しい運営状況の中でも地域活性化事業として「うみの市」などを開催し、市外からも多くの来客を呼び込み、関係人口を創出している。それらは、管理者の並々ならぬ熱意があつてこそだと感心した。

「海の校舎」のように“ものづくり”や“クリエイター”という特徴ある廃校の利活用、さらに指定管理以外の運営方法を参考とし、本市においても、今後廃校の校舎の利活用を真剣に考え、特色を活かした地域活性化につながる事業を模索していきたい。